実は神様がたくさん!?

11kmコース

# 神話と伝説を辿るコース

## コンセプトポイント

### 1 八十の岩橋

升田山（ますだやま）東端の、加古川に面した所に自然にできた石段がある。「播磨国風土記」に、「斗形山（ますがたやま）という。石橋あり。伝えて言う、上古の時、この橋天に至り、八十人衆、上り下り往来。故、八十橋という。含芸（かきむ）の里。」という記述があり、この石の階段を80人の神が、天と地を行き来していたと言われている。

**チェックポイント** 天まで伸びていたと言われる石の階段。頂上からは平荘湖、加古川を一望できる。

### 2 弁財天神社

平荘湖の建設に伴い、現在の位置に移された神社。その昔、村人と親しくなった弁天様が片袖だけを残していったという伝説がある。また、平荘湖の場所にあった稚児窟古墳（ちごがくつこふん）から発掘された、長さ223cm、幅148cm、厚さ60cmもある石棺の蓋も併せて現在の場所に運ばれた。

**チェックポイント** 七福神の1人でもある弁天様の伝説が残る神社。

### 3 日岡御陵

日岡山公園内にある大きな前方後円墳。景行天皇（けいこうてんのう）の后、稲日大郎媛（いなびのおおいらつめ）の墓だといわれている。「日本書記」や、「播磨国風土記」によると、「皇后が亡くなり、日岡山へ葬るため遺体を乗せて印南川（加古川）を渡っていた際、大きなつむじ風が吹いて船が転覆した。後に領巾（ひれ）と櫛笥（くしげ）だけが見つかり、これを葬った」という。そのことから「ひれ墓」とも呼ばれている。

**チェックポイント** 日本の神話に出てくるヤマトタケルの母と言われる稲日大郎媛の墓。

### 4 日岡神社

主神は天伊佐々彦命（あめのいささひこのみこと）。「播磨国風土記」によると、隣の日岡御陵に眠っていると言われる稲日大郎媛（いなびのおおいらつめ）が懐妊した際、最初の皇子が大変難産だった。そのため、次に稲日大郎媛が懐妊した際、天伊佐々彦命が七日七晩、安産を神に祈願したところ無事双子の皇子を出産することができたという。このことから「安産の神様」としてその名を馳せ、播磨随一の大社となった。

**チェックポイント** 境内には、双子の皇子が産湯につかったと言い伝えのある石のたらいがある。

## よりみちポイント

- Ⓐ スタート・ゴール地点 氷丘公民館
- Ⓑ 権現神社
- Ⓒ 水管橋
- Ⓓ 新井緑道

【凡例】
- モデルコース
- 1～4 コンセプトポイント
- Ⓐ～Ⓓ よりみちポイント

©That's & Trial 2010